

直島を歩こう！Let's ロゲイニング！！

－直島未来会議の結果を受けて－

代表者 三宅 あずさ（経済学部経営システム学科3年）

1. 目的と概要

昨年度は学生支援プロジェクトのご支援を受け、直島で様々な立場の人が一堂に会し直島の魅力や問題点などを話し合う直島未来会議を開催した。

今年度この事業では、この直島未来会議のなかで明らかとなった直島の魅力の活かし方や直島の問題点の解決方法を実行することを目的に、ワークショップの結果から出てきたアイデアを現実のものにしたい。具体的には、島民からの「直島への観光客の周り方がせわしない」や「直島のアート以外の良さを知ってもらえていない」という意見から、直島への観光客に対して、直島の町並みや島民との交流も楽しんでもらうことを目的としたロゲイニングを開催する。

本事業では、ロゲイニングで使用する地図を作成、香川県庁のてくてくさぬきのご協力のもと、季節や地区にあったロゲイニングを複数回実行する。ロゲイニングとは、地図をもとに、時間内にチェックポイントを回り、得点を集めるスポーツである。

2. 実施期間（実施日）

平成27年6月19日 から 平成28年2月29日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

【実施主体】

香川大学直島地域活性化プロジェクト

…直島において香川大学生が主体となって地域活性化を目的とした活動を行う団体。平成17年10月に発足し、平成18年8月5日に直島の本村地区にて「和 cafe ぐう」を開業した。以降、カフェの運営を中心に、直島の子どもたちを対象とした環境をテーマとしたイベントを開催したり、地域行事に参加したり、と様々な活動を行っている。

【実施内容】

香川県庁が作成している「香川まちなめぐり てくてくさぬき」にてロゲイニングを主としたまち歩きイベントを掲載していただき参加者を募り、直島のアートだけではなく魅力を伝えるイベントを直島町本村地区中心に計3回実施。

企画段階では9月～1月の間に月1回、計5回実施する予定であったが、5回のうち2回は参加者が定員数に達せず実施を断念している。

- **第1回**

平成27年9月27日(日) 9:00～18:00(受付9:30～)

参加者 33名(うち学生14名)

- **第2回**

平成27年10月25日(日) 9:00～18:00(受付9:30～)

参加者 17名(うち学生12名)

- **第3回**

平成28年1月17日(日) 9:00～18:00(受付9:30～)

参加者 18名(うち学生10名)



ロゲイニング風景



直島町長ご夫妻とすなおくん

【アンケート】

●アンケート項目

〈参加者について〉

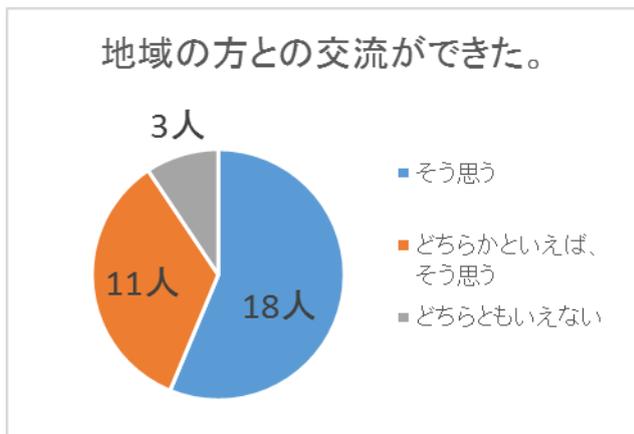
- 問1 あなたの年齢は？
- 問2 あなたの性別は？
- 問3 あなたはどこから来ましたか？
- 問4 このイベントをどこで知りましたか？
- 問5 ロゲイニングを知っていましたか？
- 問6 あなたのグループは何人のグループでしたか？

〈ロゲイニングについて〉

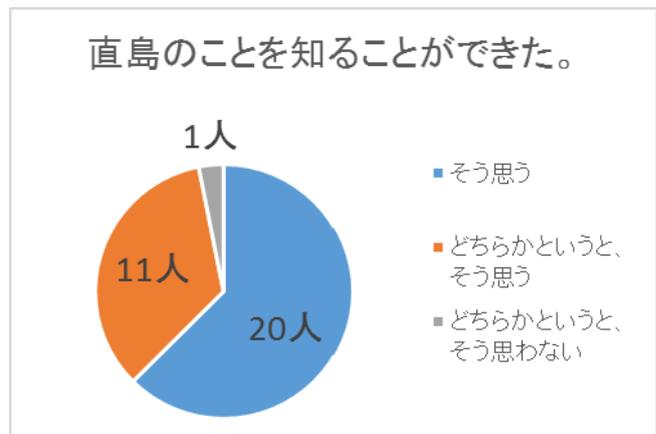
- 問7 説明はわかりやすかった。
- 問8 時間は適切であった。
- 問9 1グループの人数は適切であった。
- 問10 やり方は適切であった。
- 問11 冊子は見やすかった。
- 問12 マップは見やすかった。
- 問13 満足であった。
- 問14 昼食（和 cafe ぐう）は満足であった。
- 問15 地域の方との交流ができた。
- 問16 直島のことを知ることができた。
- 問17 自由記述

●アンケート結果

問15



問16



上記のグラフから、問15「地域の方との交流ができた」問16「直島のことを知ることができた」ともに「そう思う」と回答した方が多く、直島島民の方との交流や直島自体を知ってもらいたいというこの事業の目的を達していることが分かる。

アンケートには自由記述欄も設けており、そこには「直島の歴史・文化を知ることができた」「地元の方と話ができて直島を好きになった」などのご意見をいただいた他、「チェックポイントを変更したものを実施して欲しい」「リピーターを作る工夫がもっとできそう」といった、アドバイスのようなご意見もいただいた。

その他にも励ましの言葉などを頂いており、この事業の経験を活かし工夫を加えつつこのイベントを行っていくことで、直島未来会議の結果から出てきた問題点を改善していくことができるのではないかと考えている。

【留意点】

● ログイニング冊子の作成

イベントを開催する際にログイニングのチェックポイントを載せた冊子を2回作成した。内容は写真だけでなくポイントの説明なども載せることで、そのイベントの時だけでなく、イベント後も直島の知識を少しでも多くの人に知ってもらえるような物を作成した。

1回目と2回目で違う点として、今後も使用していけるように、また参加者目線となり、写真や文を見やすく1回目より完成度の高いものを作成した。

● リピーター作り

参加者が1回参加するだけで終わらぬよう、イベントに毎回違う内容を組み込み、何回来ても新たな発見、島民との出会いがあるように工夫を行った。

具体的には、イベント内で行うミッションを毎回変更する他、島内のカフェに協力していただき、その店のものを提供していただくこともあった。

● 集客

一般の観光客をターゲットとしており、集客にはとても苦労した。香川県庁が出している、てくてくさぬきの主な利用者が高齢者であり、イベント名にログイニングという言葉を使用したため、内容が把握しづらかったのが原因であると考えている。

そのため、てくてくさぬきに頼るだけでなく、メンバーのバイト先やスーパーにイベントのチラシを置かせていただいたり、学内では様々な先生に協力していただき授業で宣伝をさせていただいたりした。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を通し、自分たちの活動する地域の方のみならず、参加してくださる一般のお客様と交流することができた。これは私達だけでなく、直島島民の方からも「観光客の方と話せて楽しい。」という声を聞くことができた。また、この事業の説明をすることで、協力してくださるカフェの方も多くいた。

その他イベント中に島民の方に、「カフェだけでなくこんな活動もしているのね。頑張ってる。」と声をかけていただくこともあり、香川大学の取り組みや私達直島地域活性化プロジェクトの活動についても知っていただくことにも繋がった。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

私達はこの事業で、直島町、直島町教育委員会からご協賛をいただき、町役場のロビーや直島のイメージキャラクターである“すなおくん”の着ぐるみなどを使用させていただいた。また、直島町観光協会にはイベントの受付窓口や町営バスの調整などで大変お世話になった。

イベント当日には、休日にも関わらず直島の町長、副町長がチェックポイントとして参加して下さった。事前の準備の段階で何度も直島に足を運び、しっかりとイベントの趣旨説明や当日までの流れや現在の進行状況を説明することによってこのように協力していただけるのだとこの事業を通し気付くことができた。

また、準備段階ではお世話になる島民の方の家を一軒一軒説明しながら回らせていただき、この事業に賛成の意見だけでなく反対の意見もいただき、生の声を聞くことで事前準備の大切さや地域の方との接し方を学ぶいい機会となった。

イベントの何回か行う中で、新聞の取材も受け11月6日の日本経済新聞四国経済版に掲載していただくこともあった。自分たちの活動は多くの人を知っており、自分たちの言動は自分たちだけの問題ではなく、香川大学の名を背負っていることも感じ責任を持たなければならないのだと改めて考えさせられた。

全てのイベント開催後、香川県庁からは「今後もてくてくさぬきにぜひコースを掲載して、若い力で観光を盛り上げてほしい。」とお話をいただいております。今後は今回の事業をベースとして形を変えていながら、微力ではあるが直島そして香川県の活性化に役立てていけるのではないかと考えている。



11月6日

日本経済新聞四国経済版

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

【反省点】

てくてくさぬきに掲載していただく際のイベント名に“ロゲイニング”という言葉を使用した。しかし、てくてくさぬきの主な利用者は高齢の方が多く、馴染みのない“ロゲイニング”という言葉では興味を引くことができず、集客が思うようにいかなかった。この点については、直島の島民の方からもご指摘をいただき、今後は一目で内容が想像できるような、キャッチーな名称を考えていく必要がある。

イベントの趣旨として「アートだけでない直島の魅力発見」ということを考えていた。そのため直島の知識をプロジェクトメンバーが共有し、お客様に伝えていくことが必要であった。しかし、なかなか全員が完璧に直島の知識を身につけ、さらにそれを言葉にして伝えるとういことが難しく、お客様に迷惑をかけるといったことはなかったが、事前にもっと勉強していれば直島の魅力をさらに伝えることができたと考えられる。

【今後の抱負】

上記でも述べたように、香川県庁からも、てくてくさぬき掲載を、という話を頂いているので、今後も香川県庁や直島町に協力していただきながらイベントを続けていきたいと考えている。

未来会議の結果から直島で行えそうなアイデアを考えている段階であり、今後も直島の「未来」のために魅力発信や課題解決に繋がる活動をしていこうと模索している。

【感想】

今回の事業を通して直島の方々にとってもお世話になり、直島で活動させていただけることがとても有難いことだと気づくことができた。また、事前準備でお世話になる方の家を一軒一軒回らせてもらい直接話をする中で、日頃話をするのがなかった島民の方とゆっくりと話げできた。

イベントでは直島の魅力を伝えるために、まず自分たちも知識を身につけなければならないということで、直島についての勉強を行った。普段直島で活動している私たちだが、まだまだ知らないことばかりであることに気づき、それはメンバー内でも差があるということが分かった。

今後今回の経験や繋がりを活かし活動していきたい。



てくてくさぬき 掲載ページ



ロゲイニング風景 スタート時

7. 実施メンバー

代表者	三宅 あずさ (経済学部 3年)	
構成員	浮田 菜央 (経済学部 4年)	棚橋 恵大 (経済学部 4年)
	三宅 佑佳 (経済学部 4年)	岸 菜々美 (経済学部 3年)
	楠 璃子 (経済学部 3年)	牛房 里香 (経済学部 3年)
	難波 昌美 (経済学部 3年)	濱野 由椿 (経済学部 3年)
	福本 真明 (法学部 3年)	山影 優介 (法学部 3年)
	山原 亜貴 (経済学部 2年)	天野 希望 (経済学部 2年)
	大野 あゆみ (経済学部 2年)	白川 亮 (法学部 2年)
	園山 侑加 (経済学部 2年)	田中 恭亮 (法学部 2年)
	徳田 琴 (経済学部 2年)	濱本 舜也 (経済学部 2年)
	久富 葵 (経済学部 2年)	八木 多聞 (経済学部 2年)
	伊井 杏 (工学部 1年)	植島 隆介 (工学部 1年)
	小原 直大 (経済学部 1年)	橋本 夏帆 (経済学部 1年)
	原 雄一郎 (経済学部 1年)	福間 弘城 (経済学部 1年)
	藤本 釉美 (経済学部 1年)	美木 安梨沙 (経済学部 1年)
	山崎 真由 (経済学部 1年)	